



明日の
しあわせを
化学する



東ソー株式会社

個人投資家様向け会社説明会

広報・IR室長 永益 信之

2025年3月13日

東証プライム

4042

1. 東ソーとは
2. 当社の特徴・強み
3. 中長期経営戦略
4. 当社株式の魅力

東ソーとは

化学で多彩な製品群を社会に提供

| | |
|---------|-------------------|
| 設立 | 1935年2月11日 |
| 本社所在地 | 東京都中央区八重洲2-2-1 |
| 登記上本店 | 山口県周南市開成町4560 |
| 代表取締役社長 | 栗田 守（くわだ まもる） |
| 資本金 | 552億円（2024年3月末現在） |



代表取締役
社長執行役員
栗田 守

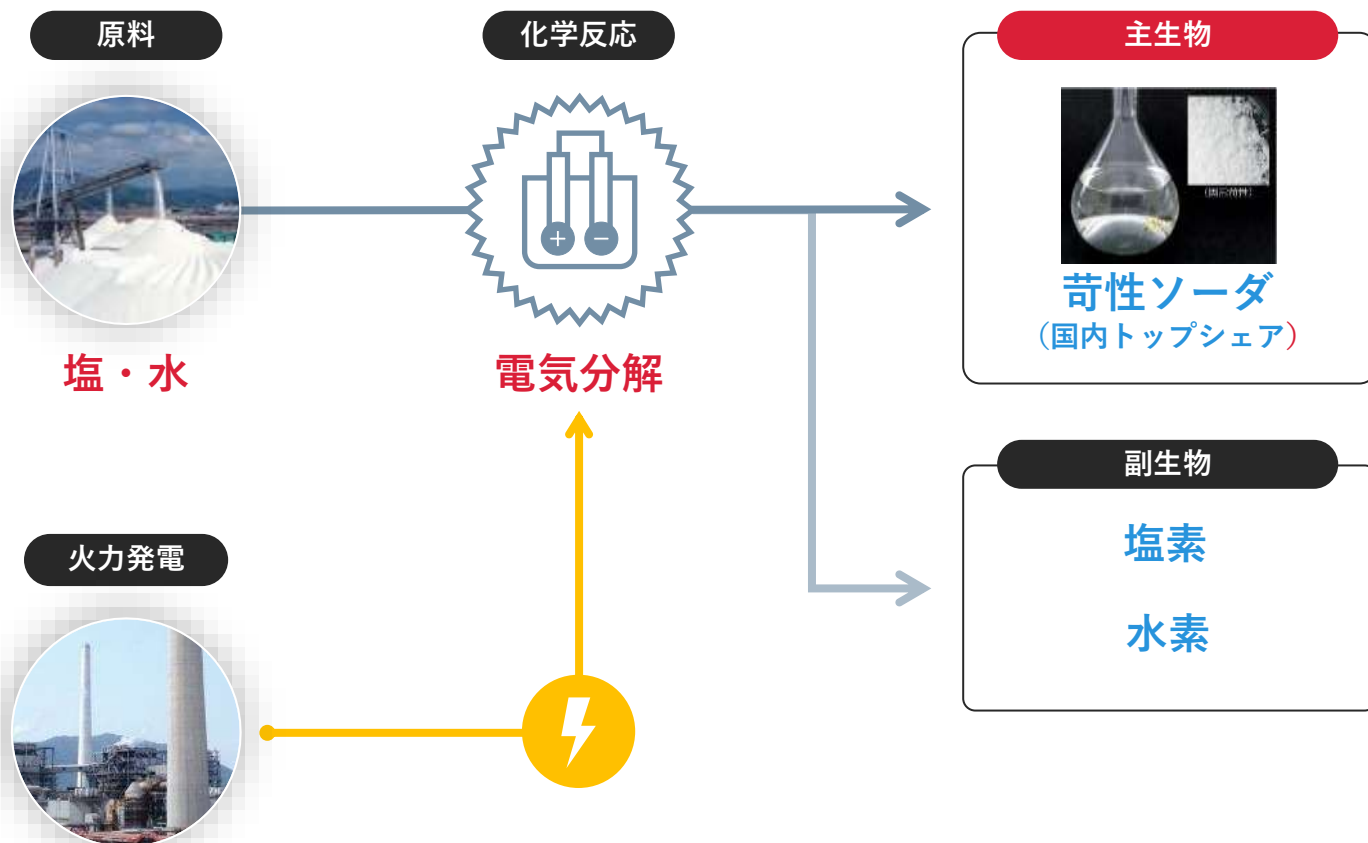
| | | | |
|--|--|--|--|
|  設立 1935年 |  従業員数 14,729人 *1 |  売上高 1兆700億円 *2 |  営業利益 980億円 *2 |
|  研究開発費 230億円 *2 |  特許出願件数 521件 *3 |  国内グループ会社 61社 |  海外グループ会社 47社 |

*1：従業員数：2024年12月末時点

*2：売上高、営業利益、研究開発費：2024年度予想

*3：特許出願件数：2023年度

東ソーとは
1935年 東洋曹達工業設立



苛性ソーダ

(水酸化ナトリウム/ NaOH)

強アルカリ性：溶かす・洗浄する等の機能をもつ

主な用途

需要漸減

上下水道排水中和

紙パルプ蒸解漂白

需要伸張

紙おむつ原料 (衛生環境の向上)

アルミナ精錬 (車両機体の軽量化で省エネ)

LiB正極材 (電化推進で生活の質を向上)

- 幅広い用途に展開、**社会の発展に貢献し、産業に不可欠な素材**
- 社会構造の変化により**用途も新陳代謝する、なくなる製品**

| | | | |
|--|------------------------------------|----------------|--|
|  | <p>1935年～ 創業期</p> | <p>無機化学</p> | <p>苛性ソーダ 塩素 セメント 等</p> |
|  | <p>1960年代～ 石油化学への進出</p> | <p>有機化学</p> | <p>塩化ビニル ポリエチレン 合成ゴム (CR、CSM) エチレン 等</p> |
|  | <p>1970年代後半～スペシャ リティ分野への挑戦</p> | <p>スペシャリティ</p> | <p>分離精製剤、診断機器試薬 (バイオサイエ ンス) ジルコニア (歯科材料) ハイシリカゼオライト (排ガス浄化触媒) 石英ガラス (半導体製造装置の治具) 等</p> |

■ 創業期のソーダ工業から石油化学への進出、スペシャリティ分野への挑戦によって
総合化学メーカーとして着実にステップアップ

4つの事業から構成 主な製品・用途

クロル・アルカリ事業 (化学品・ウレタン・セメント)



給排水管用 塩化ビニル



自動車内装材用
ウレタン原料MDI



セメント

石油化学事業 (オレフィン・ポリマー)



高純度薬液容器用 ポリエチレン

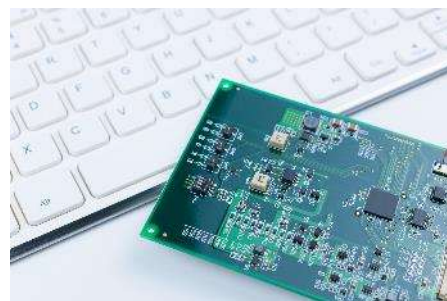


伝動ベルト用 剛性ゴム (CR)
※写真提供：バンドー化学

機能商品事業 (バイオサイエンス・高機能材料・有機化成品)



診断装置・試薬



PC・スマホ部材用 ターゲット材、臭素等

エンジニアリング・その他



水処理プラントエンジニアリング事業
(オルガノ株式会社にて事業展開)

東ソーとは 業績について

クロル・アルカリ事業

化学品・ウレタン・セメント

市況の影響を受けやすい
ボラティリティが高い

石油化学事業

オレフィン・ポリマー

利益率・額ともに安定推移

機能商品事業

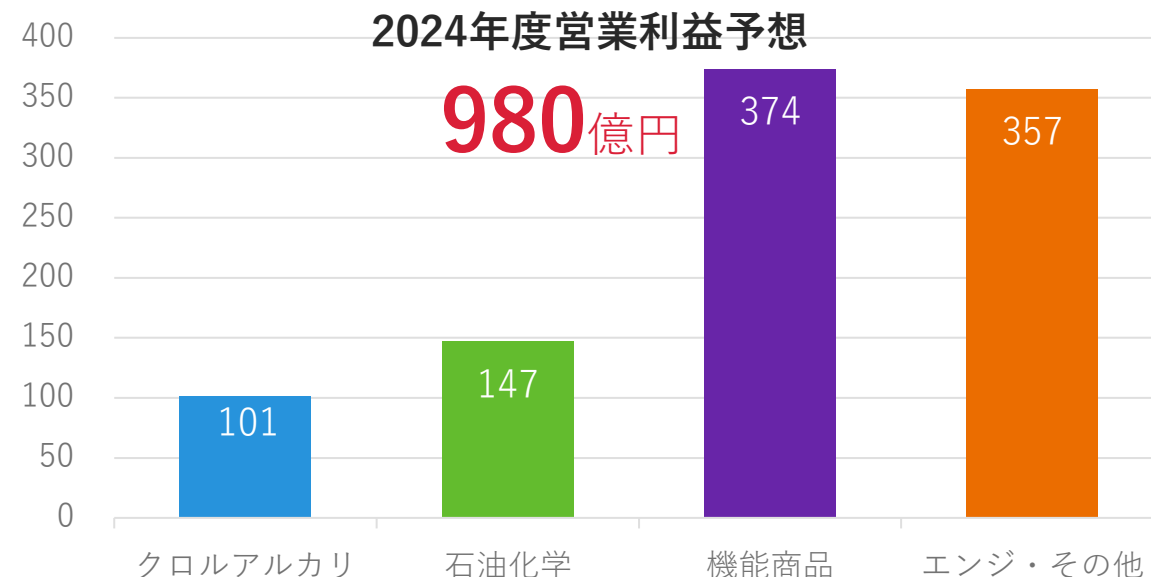
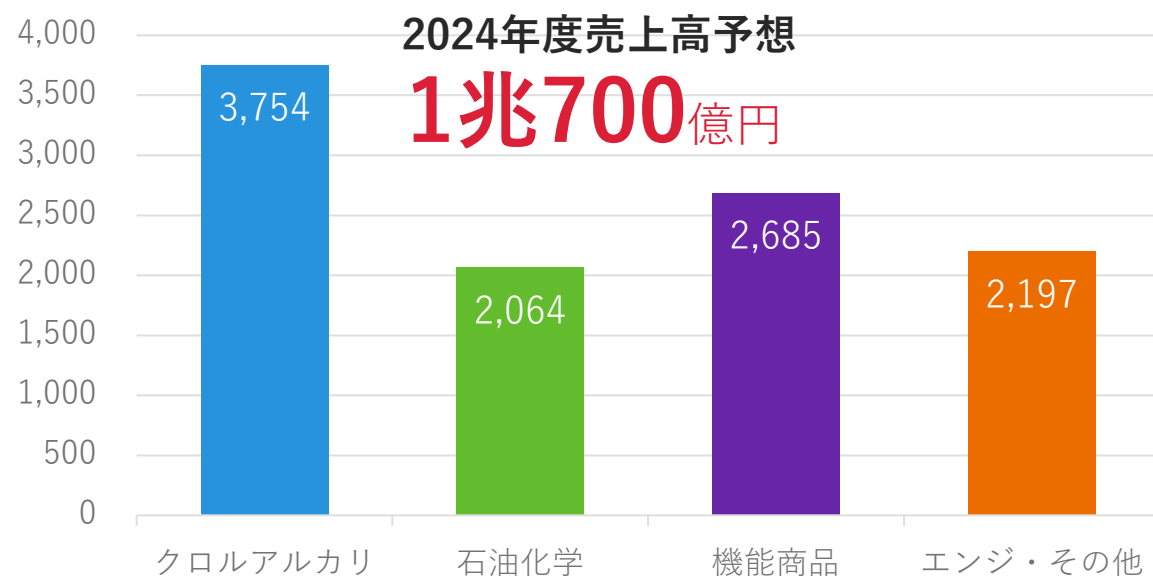
バイオサイエンス・高機能材料・
有機化成品

高い技術力により
高付加価値品を展開、
市況の影響を受けにくい

エンジニアリング・その他

水処理事業・プラント建設
運輸・倉庫、検査・分析、
情報処理事業など

子会社を中心に展開



当社の特徴・強み

ハイブリッド経営
インテグレーション
技術の有効利用

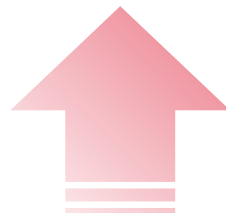
企業価値向上
生み出したキャッシュを成長投資

コモディティ

様々な用途で幅広く活用され、
社会生活の基盤を支える基礎素材

汎用品
(クロルアルカリ、石油化学)

- ・基礎素材ゆえに 需要は底堅い
- ・市況や景気変動の影響を受けやすく、
損益変動が大きい



スペシャリティ

特長的な機能や性能で、社会課題の解決や
QOL向上に貢献する高付加価値品

特殊品
(機能商品)

- ・付加価値が高く高収益、損益安定
- ・事業化に投資と時間が必要。技術革新
による需要喪失リスク

■ 業績変動の大きな「コモディティ」を「スペシャリティ」の収益が下支え、業績の安定を図る

■ 「コモディティ」で生み出したキャッシュを、「スペシャリティ」成長投資へ

ハイブリッド経営 営業利益の拡大に貢献

単位：億円

営業利益推移

ハイブリッド経営の深化



(100)

(300)

※2024年度は計画値

南陽事業所：当社の主力製品開発・製造・販売の起点

当社発祥の地であり（本店所在地）、最大の生産拠点



- 東京ドーム約65個分の広さ 約300万㎡（約100万坪）
- 化学メーカーの単一事業所として国内最大級
- 港湾設備・自家発電設備を完備（自家発電率100%）
- アジアへの輸出拠点（東京と上海がほぼ同等距離）



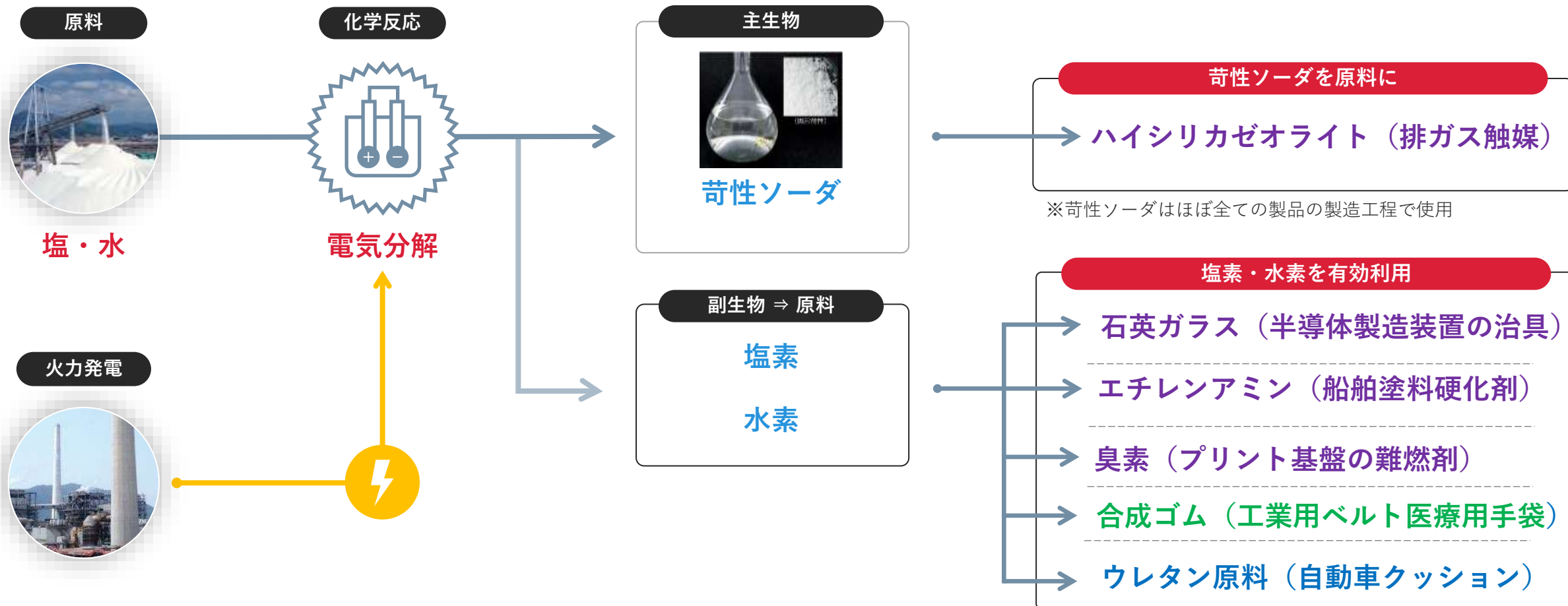
自家発電設備



港湾設備



インテグレーション コモディティがスペシャリティ生産に貢献



■ 巨大なインフラ利用した苛性ソーダ、塩素がスペシャリティのコスト競争力の源泉に

技術の有効活用 分離・分析技術がメディカル分野まで発展



分離技術

測定装置、カラム

「国内シェアナンバーワン」の
分析機器が誕生

HLC®-8420GPC

高分子研究に欠かせない分子量測定機器



国内シェア
60~70%

HPLC用カラム

数百のグレードを
ラインナップ



分析技術

診断装置、試薬

メディカル分野の
分析機器・試薬開発も展開

糖尿病診断



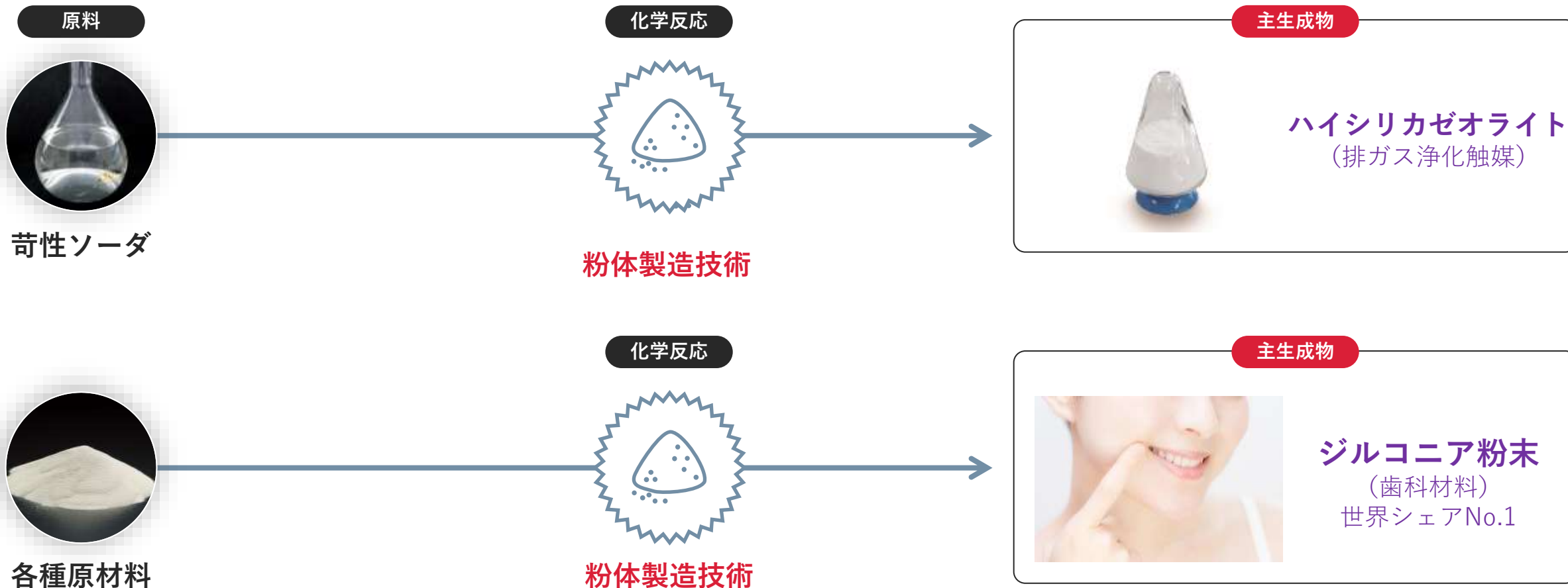
免疫診断(ガン等)



遺伝子検査(コロナ等)



技術の有効活用 汎用製品・技術から付加価値高い「特殊製品」を生産



■ 現有技術・知見を活かすことで開発期間・工数をミニマイズ化

中長期経営戦略

成長と脱炭素の両立で社会に貢献

東ソーハイブリッド経営®の深化 『成長』と『脱炭素』の両立

| | | コモディティ | スペシャリティ |
|-----|----------------------------|-------------|--------------|
| 前中計 | 定義 | 社会基盤を支える汎用品 | 社会課題を解決する特殊品 |
| | 競合関係 | 多い | 少ない/無い |
| | ターゲット | 利益額 | 利益率 |
| | コモディティ、スペシャリティをバランスよく成長させる | | |



深化



| | | | |
|-----|------|----------|-------------|
| 中長期 | 目的 | 安定供給の維持 | 成長 |
| | 経営資源 | ○ | ◎ |
| | 目標 | 脱炭素と利益維持 | 能力増強・新規事業育成 |

2030年度スペシャリティ営業利益1,000億円、GHG排出量30%削減※へ

※2018年度比

ハイブリッド経営 コモディティースペシャルティ製品区分

主要事業分野

| | | コモディティ | スペシャルティ | |
|---|---|------------|---|---|
|  | 機能商品事業 | | 分離精製剤、免疫診断機器試薬（バイオサイエンス） ジルコニア（歯科材料） ハイシリカゼオライト（排ガス浄化触媒） 石英ガラス（半導体製造装置治具） 薄膜材料（半導体の配線材料） エチレンアミン（船舶塗料硬化剤） 臭素（プリント基板難燃剤） | |
| |  | 石油化学事業 | エチレン、プロピレン ポリエチレン | 合成ゴム（工業用ベルト 医療用手袋） PPS 石油樹脂 ペースト塩ビ |
| |  | クロル・アルカリ事業 | 苛性ソーダ 塩化ビニル ウレタン原料（MDI） | ウレタン原料（自動車クッション） |

成長加速を支えるスペシャリティ 2030年度営業利益目標 1,000億円

| | 2023年度 | 構成 比率 | 2024年度 | 構成 比率 | 2030年度 | 構成 比率 |
|--------------------|--------|----------|--------|----------|-----------------|----------|
| | 実績 | | 予想 | | 目標 | |
| バイオサイエンス | 195 億円 | 40% | 200 億円 | 42% | 250～350億円 | 25% |
| 高機能材料 | 96 億円 | 20% | 49 億円 | 10% | 400～500億円 | 40% |
| 有機化成品 | 88 億円 | 18% | 126 億円 | 27% | 200～250億円 | 20% |
| 機能性ポリマー 機能性ウレタン | 103 億円 | 21% | 100 億円 | 21% | 150～200億円 | 15% |
| スペシャリティ合計 | 482 億円 | 100% | 474 億円 | 100% | 1,000 億円 | 100% |
| 全社合計 | 798 億円 | | 980 億円 | | 検討中 | |

- 広範な事業分野でスペシャリティ製品を強化し営業利益を増額していく
- バイオサイエンスも成長のドライバーとして投資を進めていく
- 高機能材料事業はすでに先行投資をおこなって石英ガラス、スパッタリングターゲットの半導体関係の収益拡大に期待

事業部門別方針 スペシャルティ営業利益1,000億円を目指して

| 事業部門 | 主な分野、製品 | 方針 |
|--------------------|---------------------------|--|
| バイオサイエンス | 計測分野 (<u>分離精製剤</u> 等) | <ul style="list-style-type: none"> ● バイオ医薬品分野への分離精製剤拡販 ● SkillPakの拡販、連続クロマトビジネスの確立 |
| | 診断分野 (免疫診断機器、試薬等) | <ul style="list-style-type: none"> ● 各国でのAIA-CLの上市と試薬の拡販 ● POCT市場への参入 |
| 高機能材料 | <u>石英ガラス</u> | <ul style="list-style-type: none"> ● 能力増強による半導体成長需要の取り込み |
| | <u>スパッタリングターゲット</u> | <ul style="list-style-type: none"> ● 能力増強による半導体成長需要の取り込み ● 装置・デバイスメーカーとの関係強化による拡販(GaNターゲット等) |
| | ジルコニア | <ul style="list-style-type: none"> ● 歯科材料のシェア維持+販売地域拡大 ● 新規用途展開(SOEC等) |
| | ハイシリカゼオライト | <ul style="list-style-type: none"> ● 環境規制対応の高機能グレード拡販 ● 製品ポートフォリオ拡大(CN触媒用ゼオライト等) |
| 有機化成品 | エチレンアミン | <ul style="list-style-type: none"> ● 余剰EDAを有効活用(需要旺盛なTETAを増産) |
| | 臭素・難燃剤 | <ul style="list-style-type: none"> ● 世界需要に合わせた規模拡大 |
| | 新規開発品 | <ul style="list-style-type: none"> ● 有望技術を大きく拡大(<u>CO₂回収アミン</u>等) |
| 機能性ポリマー 機能性ウレタン | クロロプレングム等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 能力増強を検討 |
| | HDI、HDI誘導体等 | <ul style="list-style-type: none"> ● 需要伸張に合わせた拡販、技術開発による差別化 |

分離精製剤(計測分野)

- バイオ医薬品等の研究開発・製造時に不可欠
- 抗体医薬品、核酸医薬品精製の需要拡大に対応
- 分離精製剤は当社主力製品のひとつ



TSKgel®

TSKgel® SuperQ-5PWは
核酸医薬精製の
“ゴールド・スタンダード*”

TOYOPEARL®

*当社呼称の「事実上の標準基準」
= デファクト・スタンダード

分離精製剤製造設備 能力増強を相次いで決定

投資額

約**300**億円

生産能力

倍増

※投資額、生産能力は2案件の合計

2025年3月、2027年6月
商業運転を開始

石英ガラス（素材・加工）

- 不純物を嫌う半導体製造プロセスに不可欠
- 洗浄、熱処理、成膜、エッチングなど前工程の製造装置や消耗品に使用
- 半導体の微細化/多層構造化に伴い需要は今後も増大
- 当社は半導体及び装置メーカーと強固な関係をもち認定材を多くラインナップ

半導体装置向け石英部品(例)



ポート



プレート



リング



チューブ

2019～2024年度

素材・加工

段階的な能力増強を実施

投資額

約**160**億円

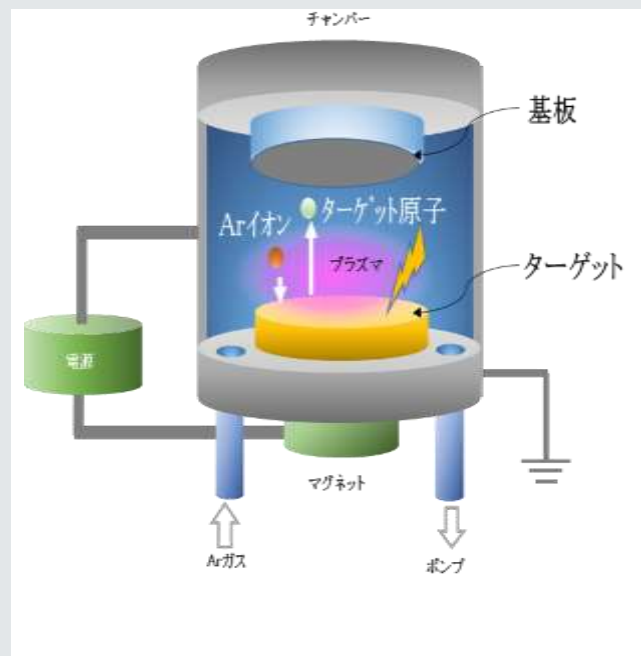
※能力は非開示

2025年度以降
大きな利益貢献を期待

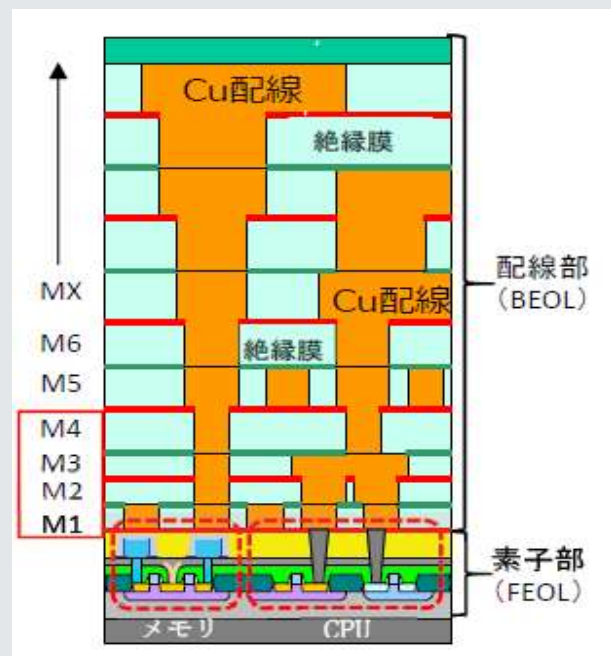
成長ドライバー（電子材料分野 高機能材料事業②）

薄膜材料（スパッタリングターゲット）

- 半導体の配線材料等に使用
- 配線部の多層化進展により使用量が今後増大
- 当社は半導体メーカーと強固な関係をもち認定材を多くラインナップ



スパッタリング法(イメージ図)



半導体の多層化(イメージ図)

2026年冬

TOSOH SMD, Inc.(米国)

能力増強を実施中

投資額

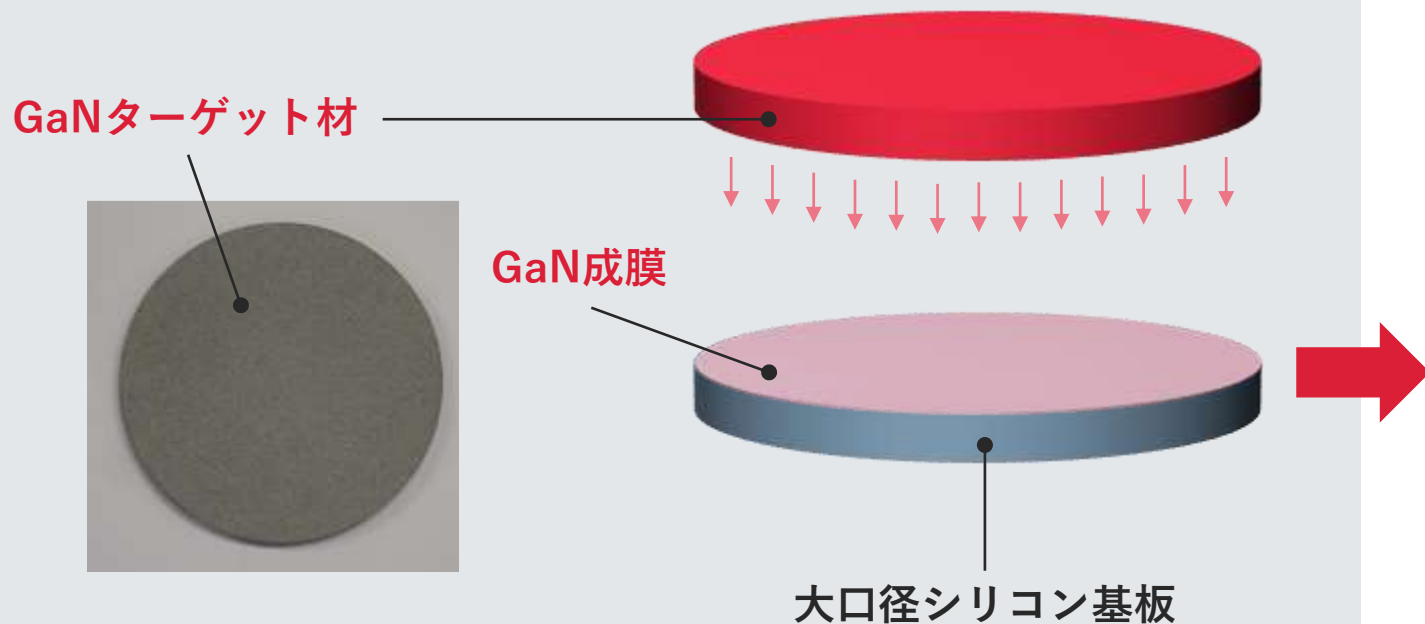
約**170**億円

生産能力

倍増

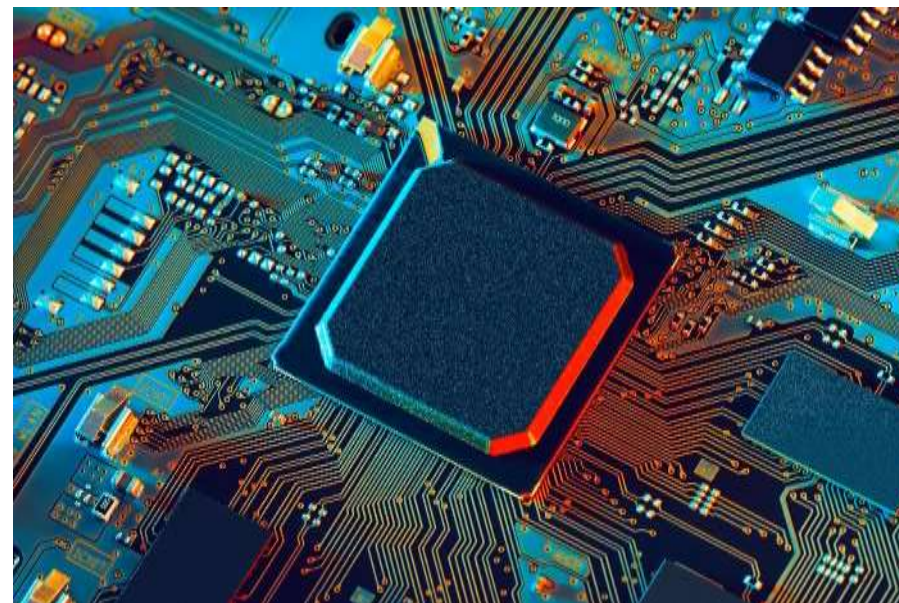
窒化ガリウムターゲット（GaN）

- 高品質でありながら低コストなスパッタ法に使用
- **装置メーカー複数社での採用が決定**
- パワー半導体、汎用LED、 μ LED向け材料への採用増加を目指す



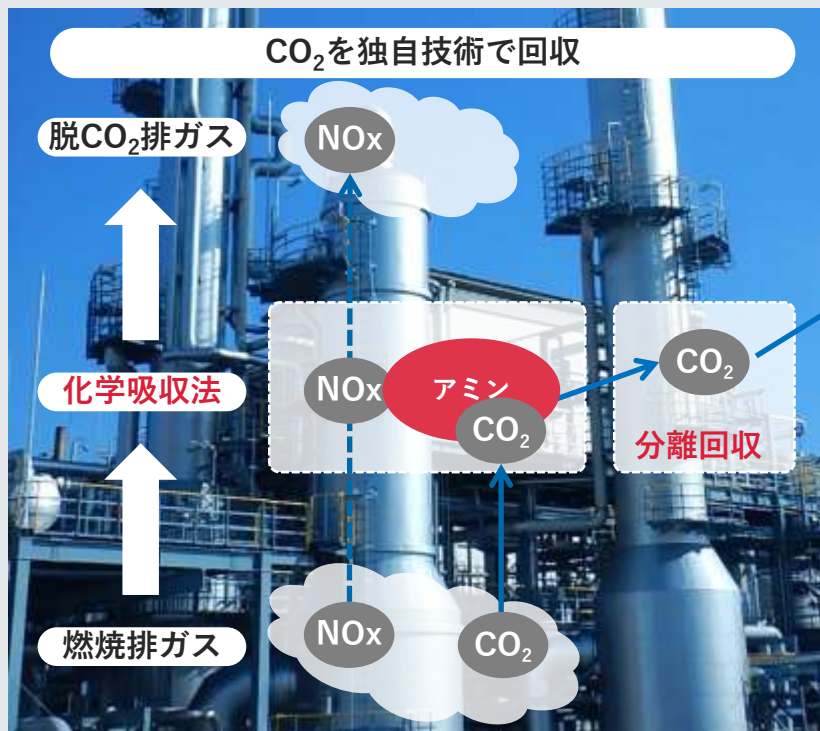
**パワー半導体市場の拡大へ
コスト低減効果による貢献を期待**

パワー半導体



CO₂回収アミン

- CO₂を回収するアミン溶液を開発、自社利用を開始
- 回収したCO₂を自社製品の原料へ有効活用しCO₂の排出削減に貢献



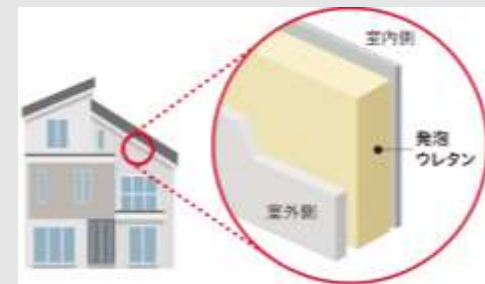
NOxは従来通り排出対策を実施済

回収したCO₂を
エッセンシャルプロダクトの原料へ

CO₂を用いたウレタン原料の用途例



建材用木質ボード接着剤



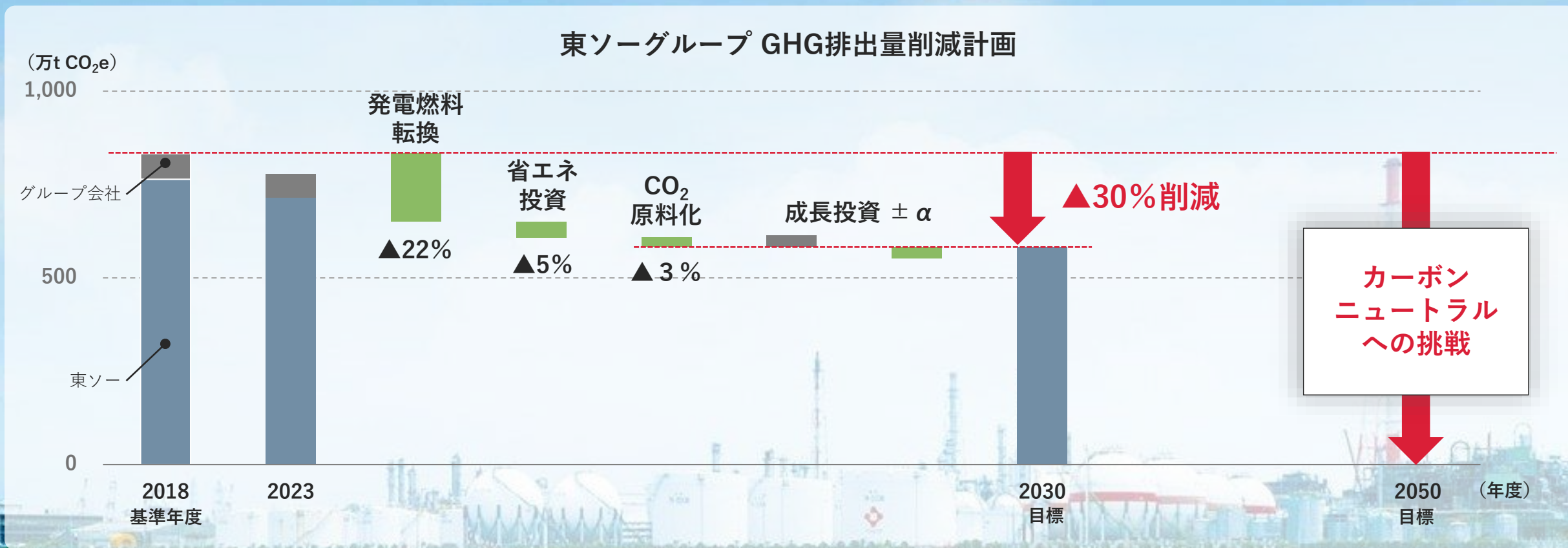
住宅用断熱材

CO₂回収アミンの外販も検討中

『脱炭素』へ向けて – GHG排出削減方針 –

当社グループ全体の温室効果ガス（GHG）削減方針

- 2030年度までに**2018年度比30%削減**
- 2050年**カーボンニュートラルへの挑戦**



『脱炭素』へ向けて 2030年度までに1,200億円の投資を計画

| | 削減率 | 具体的施策 | 投資判断 | 進捗・課題 |
|----------------------|-----|---------------------------------------|------------|--|
| 発電設備の燃料転換 | 22% | バイオマス専焼可能なボイラの導入 | 2022年7月 | 2026年4月運転開始予定 |
| | | 既存ボイラでのバイオマス混焼増 | 逐次 | 関連設備の計画的投資を実施中 各種バイオマスの燃焼実験 各種バイオマスの安定調達検討 |
| 省エネ投資 | 5% | ガスタービン追設 | 未 | 採算性を考慮し投資内容を再検討中 |
| | | 電解槽の省エネ改造 | 逐次 | 南陽・四日市とも計画的に実施中 |
| | | 最新鋭タービン導入 | 2017～2020年 | 老朽化設備の更新時に実施 |
| CO ₂ の原料化 | 3% | COプラント(ウレタン原料合成)でのCO ₂ 原料化 | 2023年4月 | 2024年秋運転開始 |

※投資判断は内部炭素価格込みで判断 (ICP = 6,000円/t-CO₂)

- 約600億円の投資案件は意思決定し、実行中
- 投資判断※未実施の案件は採算基準を満たすよう内容を精査中

社会課題解決型の製品・技術の創出・提供への取組み

「環境負荷の低減」と「QOLの向上」といった社会課題の解決に貢献する製品・技術・サービスを「社会課題ソリューション」として自社で認定し、開発や普及を促進

| | 社会課題 | ソリューション |
|---------------------|---|--|
| 環境負荷の低減 | 省エネ、再生エネなど GHG排出量削減 有害物質削減など 生態系・水保全など | <ul style="list-style-type: none"> 樹脂サッシ用塩ビ 建材用断熱材用MDIなど (CO2回収アミン液…未認定開発中) |
| QOLの向上 | インフラ 健康と医療 食料 災害対策 | <ul style="list-style-type: none"> 免疫測定装置AIA[®]-CLシリーズ 分離精製剤トヨパール[®]シリーズなど |
| 環境負荷の低減 ・ QOLの向上 | 同上 | <ul style="list-style-type: none"> 自動車排ガス用浄化触媒 ハイシリカゼオライトHSZ[®]など |

当社株式の魅力

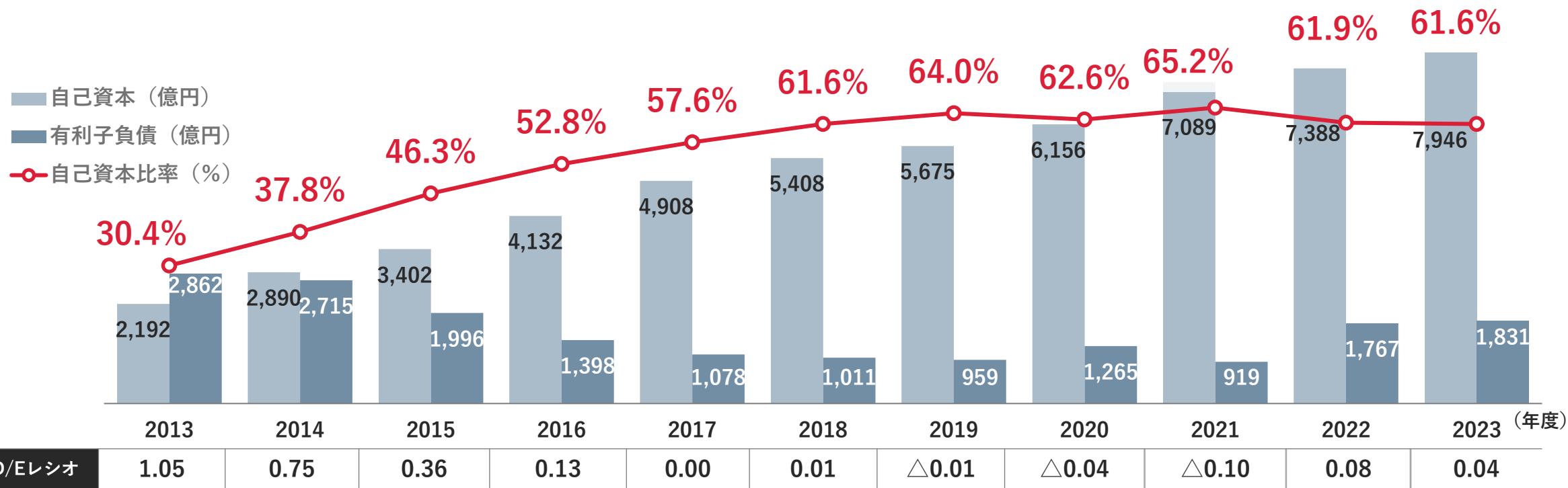
業績、安定配当を支える強固な財務体質

営業利益計画 2024年度売上高1兆700億円、営業利益980億円

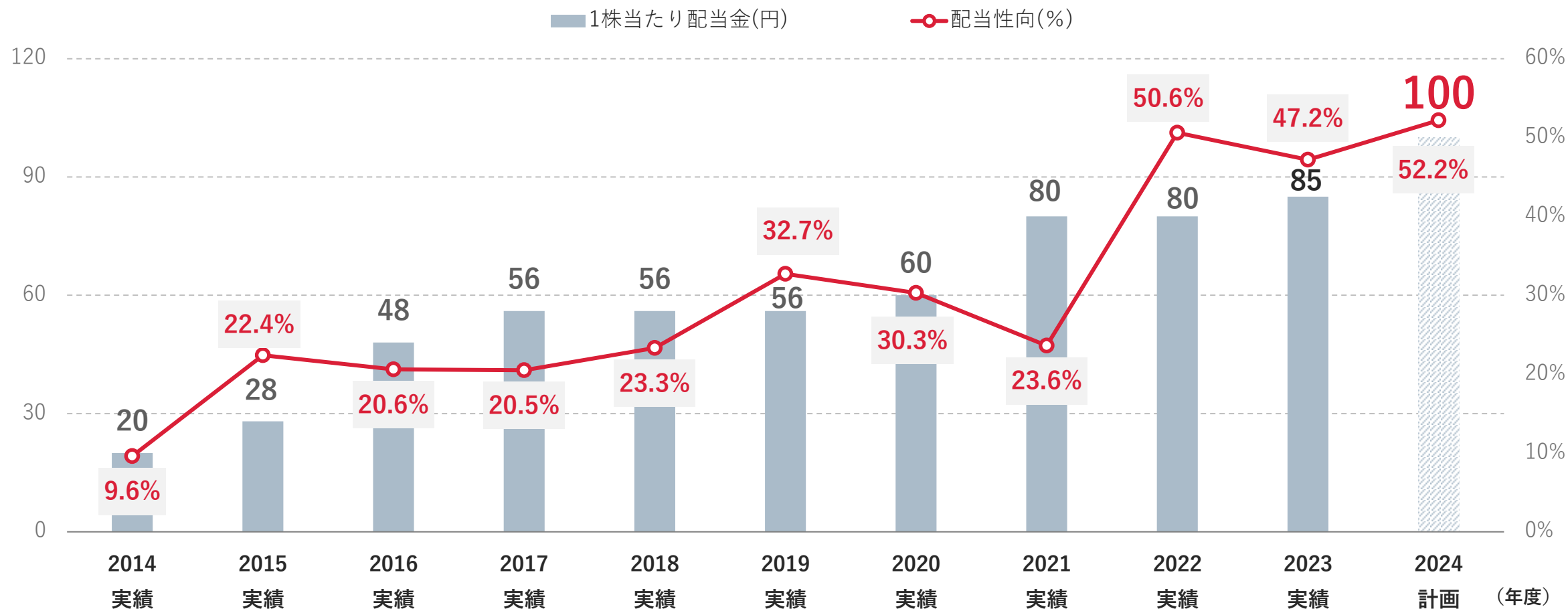
| | | 2022年度 | | 2023年度 | | 2024年度 (現中計最終年度) | 2024年度 (ご参考) |
|-------|-----|------------|--|------------|--|---------------------|-----------------|
| | | 実績 | | 実績 | | 業績予想 | 当初目標 |
| 売上高 | | 1兆644億円 | | 1兆56億円 | | 1兆700億円 | 1兆1,600億円 |
| 営業利益 | | 746億円 | | 798億円 | | 980億円 | 1,500億円 |
| 営業利益率 | | 7.0% | | 7.9% | | 9.2% | 10%以上 |
| ROE | | 7.0% | | 7.5% | | - | 10%以上 |
| 前提 | ドル | 135.5円/USD | | 144.6円/USD | | 153.0円/USD | 125円/USD |
| | ユーロ | 141.0円/EUR | | 156.8円/EUR | | 163.7円/EUR | 135円/EUR |
| | ナフサ | 76,625円/KL | | 69,100円/KL | | 75,500円/KL | 75,000円/KL |

近年の取り組みにより安定配当の源泉となる強固な財務体質を確立

| | | | |
|-----------|--------|---|--------------|
| | 2013年度 | | 2023年度 |
| 自己資本比率 | 30.4% | ➔ | 61.6% |
| ネットD/Eレシオ | 1.05 | ➔ | 0.04 (実質無借金) |



株主還元方針と配当実績 2009年度以降、配当は維持又は増加傾向



■ 安定配当を基本とし、配当性向は30%を目安とする

■ 2024年度は**15**円増配し、1株あたり**100**円の配当を計画する

予想配当利回り **4.9%**
(2025年2月末日終値)

※2019年度：自己株100億円取得

< 補足資料集 >

多様な製品群

| 区分 | セグメント | サブセグメント | 主な製品 | 用途例 |
|---------|----------|-------------------|---|---|
| スペシャルティ | 機能商品 | バイオサイエンス | 分離精製剤(TOYOPEARL) 分子量測定機器・カラム(GPC) 免疫診断機器・試薬(AIA) 遺伝子検査機器・試薬(TRC) | バイオ医薬品研究開発・製造用 高分子の分子量・分子量分布の測定 ホルモン、心疾患、腫瘍(がん)などの検査 新型コロナウイルス等の検査 |
| | | 高機能材料 | ハイシリカゼオライト ジルコニア 石英ガラス・薄膜材料(ターゲット材) 二酸化マンガン | 自動車排気ガス浄化触媒 歯科材料 半導体製造装置用素材、半導体の配線材料等 アルカリ乾電池/リチウムイオン二次電池の正極材用原料 |
| | | 有機化成品 | エチレンアミン 臭素・臭素誘導体 重金属処理剤 | 農薬原料、エポキシ樹脂硬化剤(船底塗料、電子部品の基板) 難燃剤(電子部品の基板) 飛灰、排水処理 |
| | 石油化学 | ポリマー(機能性ポリマー) | 合成ゴム(CR) 合成ゴム(CSM) PPS等 | 自動車部品、医療用手袋、接着剤 自動車部品、ゴムボート、エスカレーター手すり スマホ筐体、自動車部品 |
| | クロルアルカリ | 機能性ウレタン | ウレタン原料 (HDI) PCD(ポリカーボネートジオール) 各種エラストマー製品 | 塗料・接着剤の硬化剤 合成・人口皮革(自動車シート等) 給紙ロール、時計バンド |
| コモディティ | 石油化学 | オレフィン | エチレン・プロピレン キュメン BTX(ベンゼン、トルエン、キシレン) | ポリエチレン、塩ビモノマーなどの原料 自動車部品(ポリカーボネート樹脂原料) 溶剤など |
| | | ポリマー(ポリエチレン) | EVA(エチレン・酢酸ビニル共重合体) 高密度ポリエチレン 低密度ポリエチレン | 太陽電池封止材 半導体薬液容器 包装用フィルム、ラミネート |
| | クロルアルカリ | 化学品 | 苛性ソーダ 塩化ビニル 重曹 高度晒し粉等 | アルミヤ紙・パルプの製造、排水処理、繊維処理、石鹼 パイプ、窓サッシ、床材 胃腸薬、温浴剤 プール消毒 |
| | | ウレタン | ウレタン原料 (MDI) | 住宅建材、化学繊維、自動車シート |
| | | セメント | セメント | 建設資材 |
| その他 | エンジニアリング | オルガノ株式会社 洋林建設等 | 水処理機器・プラント プラントエンジニアリング会社 | 排水浄化、半導体向け超純水製造 |
| | その他 | 東ソー物流 東ソーニッケミ等 | 物流部門 商社部門 | |

日常生活に深く入り込む東ソーの製品（家庭に）

「国内最大級の電解設備」を起点に多様な化学反応を起こし、日常生活に多様な製品を提供



入浴剤・洗濯洗剤 **重曹**

壁紙・消しゴム **ペースト塩ビ**

T V、スマホ等 **臭素、PPS**

乾電池 **電解二酸化マンガン**

冷蔵庫 **MDI、アミン触媒**

菓子袋 **ポリエチレン**

広く社会・生活を下支えする東ソーの製品（街中に）

「国内最大級の電解設備」を起点に多様な化学反応を起こし、社会・生活を下支えする製品を提供



プール

高度さらし粉

自動車

合成ゼオライト、MDI

建築外装材・防水材

HDI、MDI

給排水管

塩化ビニル

道路

セメント、エチレンアミン

パイプ、継手用塩化ビニル樹脂



耐久性・リサイクル性に優れ、インフラ、家庭用水道管、農業用パイプ等に使用
他プラスチックより石油資源を節約、製造時のGHG排出削減に貢献



窓サッシ用塩化ビニル樹脂



複層ガラスと組み合わせた樹脂サッシ
断熱性・気密性に優れ、冷暖房効率を改善し、GHG排出量削減に貢献



建材用断熱材用ウレタン原料

(MDI)



建材用断熱材ウレタン発泡材の主原料
建築物の断熱性向上により、冷暖房効率を改善し、GHG排出量削減に貢献



飛灰・排水用重金属処理剤



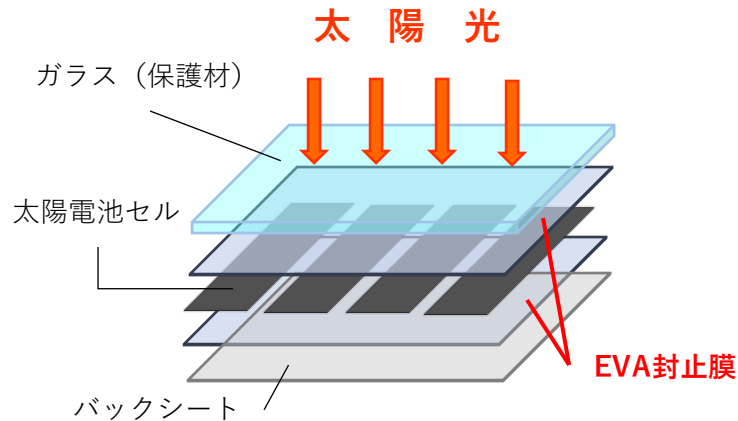
焼却炉から出る飛灰、工業排水中の重金属処理

環境流出を防止し、公害病のない社会の形成に貢献



太陽電池封止材用EVA

(エチレン酢酸ビニル共重合体)



透明性・耐候性・柔軟性・接着性に優れ、太陽電池セルの封止材・保護材として機能

再生可能エネルギーの使用を促進し、GHG排出量削減に貢献



自動車排ガス用浄化触媒

ハイシリカゼオライトHSZ®



高い耐熱性・耐酸性を有し、触媒や疎水性吸着材として使用

自動車排ガス中の有害物質である窒素酸化物・未燃炭化水素の除去・浄化に貢献



医療向け診断装置および試薬



がん・甲状腺・婦人科・心疾患などの非感染症やCOVID-19・B型肝炎などの感染症の検査

■ 早期の診断・診療を実現し、世界中の人々の健康の維持、疾病リスク軽減に貢献



分離精製剤 TOYOPEARL®



バイオ医薬品（抗体医薬品やワクチン）の原薬などの精製工程で使用

精製工程は医薬品の不純物除去の役割を持つ

高性能化・安定生産により、医薬品の品質向上・安定供給に貢献

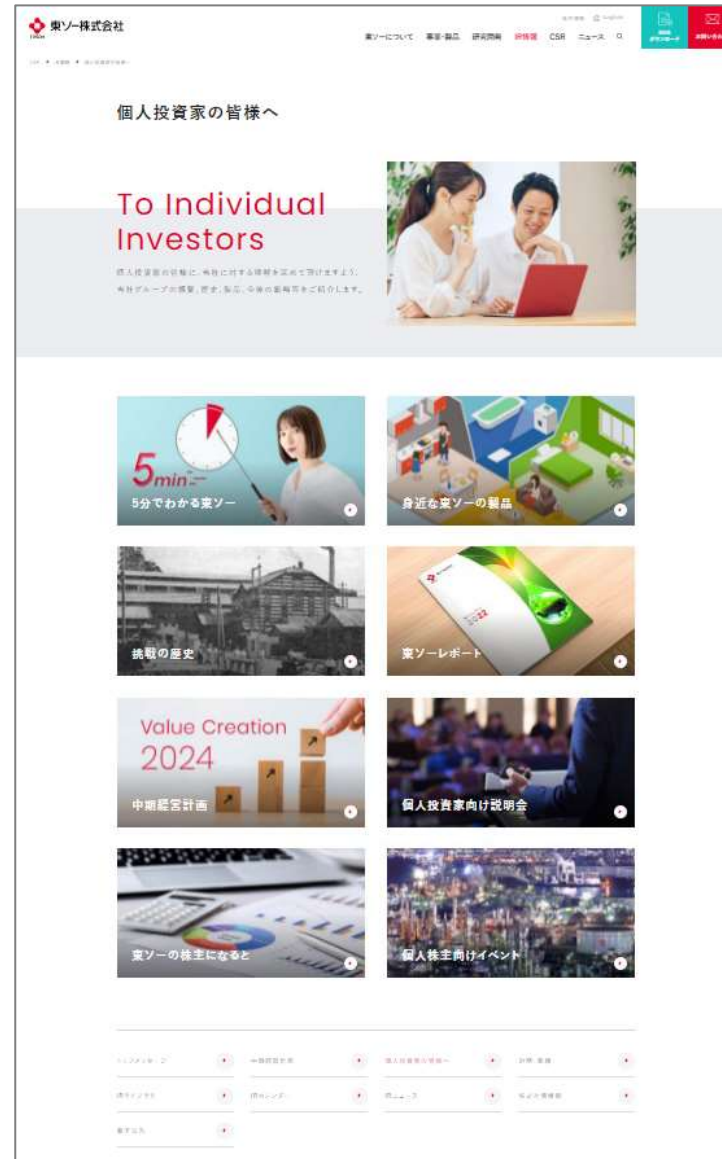


当社**WEBサイト**にて
IR情報を掲載しております。
また、適時開示情報等をお知らせする
IRメール配信サービスもございます。
ぜひご活用ください。

IRメール配信サービス ご登録ページ



<https://www.tosoh.co.jp/ir/mail/>



ご清聴ありがとうございました。

“明日のしあわせを化学する”

世の中のしあわせの輪を広げていくために、
私たち東ソーは、化学の領域を日々革新していくことで、
よりよい明日に向けて、社会に貢献していきます。



TOSOH

東ソー株式会社

東証プライム

4042